様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：１２６１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００４４３

研究課題名（和文）テレサ・ハッキョン・チャ研究―インターメディアルな文学とトランスナショナルな記憶

研究課題名（英文）A Study of Theresa Hak Kyung Cha's Works: Intermedial Poetics and Transnational Mnemonics

研究代表者
井上　間従文（INOUE, Mayumo）

一橋大学・大学院言語社会研究科・准教授

研究者番号：５０５１１６３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は韓国系アメリカ作家テレサ・ハッキョン・チャの文学作品と映像作品において移住や戦争などの記憶が、消えることを通して現れるという奇妙な表出方法を伴っていることを明らかにした。本研究は、チャの文学作品においてこうした記憶はリズムや沈黙といった文体フォームにおいて消えながら現れ、映像作品においてはディゾルブやノイズといった音声・光学的特質において露わになっていることを指摘した。また、こうして美的媒体の特質の限界において、その限界を震わせながら消えゆく過去の記憶が、同時に国民史（ナショナル・ヒストリー）の限界からも逃れ、より広範な「記憶する共同性」のあり方を開示していることをも明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
まずはBlackwell-Wiley社刊行の入門的研究図書A Companion to American Poetry(2022年）にチャ作品の美的特徴と政治・倫理的含意の双方を架橋する論考を掲載したことで、特にアメリカ詩分野におけるチャ作品の特異性について幅広い議論をすることが可能となった。総じて戦争や植民地主義の記憶表象に関する議論を、チャの美的媒体の特質(スペシフィシティ）における美的な逸脱と、それを介した「想像の共同体」としてのネーション（国民・民族）のイメージからの離脱の議論へと接続し、その理論的射程を主に英語圏で問うことができたことの意義は大きいものと考える。

研究成果の概要（英文）：This project has brought to light the ways in which Korean American author and filmmaker Theresa Hak Kyung Cha's literary and cinematic works allows colonial and imperial memories of warfare and displacement in the peculiar modality of appearance in and as disappearance. The project sought to bring into relief this modality whereby Cha's literary works track these memories through the rhythms and silences of her sentence forms while her cinematic works let such memories materialize through the medium's audio-visual specificities, most notably through dissolves and noises. This project also illuminated the ways in which Cha's exploration of memories that agitate against and disappear at the limits of such aesthetic mediums also elude the limit of national histories, thereby indicating the possibility for a critical form of mnemonic community that arises in resistance to all nation-forms.

研究分野：トランスナショナル研究　アメリカ文学　映画理論　ジェンダー研究

キーワード：テレサ・ハッキョン・チャ　トランスナショナリズム　アメリカ文学　ポストコロニアリズム　映画装置　メディウム・スペシフィシティ　記憶

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究が対象とした韓国系アメリカ作家テレサ・ハッキョン・チャの作品についてはアイデンティティの政治学の視点からの研究が多く、チャの文学作品における支配的言語の模倣の失敗や、複数言語の使用などを、チャ本人が「韓国人」でも「アメリカ人」でもなく「韓国系アメリカ人女性」であった事実の反映であるとする伝記的推測や人種・ジェンダー本質主義的な傾向が強かった。つまりこうした研究では、アメリカの帝国的編成が、特に 1970 年代以降にマイノリティのアイデンティティを差異化、位階化した上で承認することで「白人」主体の中心性を担保してきた多文化主義的な帝国主義の図式を採用したこととが十分に問われていなかった。さらに言えば、これら研究では基本的にアイデンティティの図式への理論的懐疑が乏しいために、トランスナショナルな記憶の共有に関しても、どちらかというとトランスナショナルではなくインターナショナル、つまり国民と国民の「間」に生起する関係性として議論がされてきた。

しかしチャは「舌の先から逃れていく」言語を夢想し、文学テクストや映像作品の書紀・映像メディウムとしての特性からも逸脱する表現のあり方を志していた。つまりチャ作品の表現そのものに立ち返ることで、素朴な民族・国民、人種、ジェンダーアイデンティティを反復する経験主義的視座とそれに基づく国際図式を批判できないトランスナショナル概念とを更新するかたちでのチャ研究が可能になると考えた。以上が本研究がチャ作品に文学と映像を横断する新たなトランスナショナリズムの可能性の場を見出した背景である。

２．研究の目的

研究の目的な主に以下の 2 つであった。

1) チャ作品研究の視座に書紀メディウムとしての文学論と、音声・光学的メディウムとしての映像論を導入すること。1980 年代英語圏にてフランスのいわゆる「ポスト構造主義」を受容することで興隆した文学理論においては、書紀という痕跡はテクスト的物質性であるとされてきた。それは「意味」の措定から逸脱する余剰としてのノイズをつねに備えていた。また 1970 年代にフランスと英語圏を横断して進展した映画装置論では、イデオロギー的呼びかけに回収されないカメラの運動や視線の編成が模索された。本研究はこうしたテクスト理論と映画理論を交差させることで、チャ作品の中にナショナル（国民的・民族的）かつ、あるいは特定のジェンダー化をされたアイデンティティ（同一性）という「意味」から逸脱しつづける物質性のある否定的な位相を捉えることを、まず美的側面での目的とした。

２）上記の美学的目的に則って、こうしたアイデンティティの政治学における「意味」の決定を宙吊りにするような、広範な「記憶の共同性」のあり方をチャ作品に見出すことを第二の目的とした。

チャの文学テクストにみられる、英語、フランス語、韓国語の領域をその都度その都度、間借りしながらも、そのどれにも十全には属さないような言語のあり方を読解することをここで一つの目的とし

た。また映像作品においては特に 1980 年ごろの韓国における女性たちの特異ともいえる「消え方」の位相についてある程度の言語化を行うことを目的とした。またこれらの言語表現と映像表現に接することで、視覚、聴覚、読解という感性的かつ知的な運動の図式を更新されて、それまでの主体とは異なる歴史の証言者として生成する読者・観客たちの特異性と共同性の精査をも研究の目的とした。

３．研究の方法

上記２の「研究の目的」に沿って、以下３つの研究方法を採用した。１）アメリカ・カリフォルニア州バークレーの Berkeley Art Museum, Theresa Hak Kyung Cha Archive に所蔵されているチャの作品、草稿、書簡などの綿密な調査と可能な範囲での収集、２）チャを個人的に知る当時の大学教員や一部親族からの聞き取り調査、３）それらに基づいた論文の執筆と、テーマに沿って厳選した国際学会での口頭発表である。

4. 研究成果

本研究の成果として、まずチャにおける「映画装置」論の独自の進展について 2022 年のアメリカ比較文学会で口頭発表を行い、またさらにサンフランシスコ州立大学での招聘講演としても発表したことが挙げられる。特に後者ではチャにおいて消えることで現れる記憶の視覚的特質を、同時代アメリカの実験映画作家 Hollis Frampton のそれとも対比しながら、多くの若手研究者の方たちと議論をすることができた。

　またチャがアメリカで活動する後続の詩人および理論家たちの作品やテクストに与えた影響をまとめた論文を英語圏人文学研究の入門書 Blackwell Companion シリーズの *A Companion to American Poetry*（2022）に掲載した。”‘Audience Distant Relative’: Fugitive Transnationality and Poetic Form”と題されたこの論文では、チャの詩的とされる文体において現れる、ベケットからの影響も垣間見せる破裂的なリズムや、言葉と言葉の間の沈黙などが、人種とジェンダーが過剰決定する諸主体のフォームから消え去るりながらも、こうしたフォームを脱形態化させる力の痕跡であることを論じた。またさらにこうしたチャにおける脱形態化の詩学が後続の Myung-mi Kim, Trinh T. Minh-ha, Claudia Rankine, Rob Halpern などによって受容、解釈、活用されているあり方を描き出した。英語圏で活動する３０余名の著名あるいは気鋭の研究者たちが招へい執筆を行った同書に、チャに関する論考を掲載できたことの意義は大きく、アメリカ詩研究分野において今後さらにチャ作品研究を進めるための見取り図をも示すことができたと考えている。

　また上記論文 では研究対象であった Trinh T. Minh-ha 氏が 2023 年に来日された際に、沖縄・那覇市に招聘を来ない現地の若手映像作家・写真家たちと討論を行う国際ワークショップを行った。世界的に著名な映像作家であり、またフェミニズムとポストコロニアリズムの理論家でもある Trinh 氏はチャからの影響をこれまで幾度も語ってきたが、このワークショップではチャによる消えることで現れる記憶

の否定的物質性とでも言えるものが、Trinh 氏の映画作品におけるパーカッシブなリズムや、「光の音楽である色」といった諸感覚間で消失と現出を繰り返す物質性の位相としてもあることについて議論を行うことができた。

国際的な場での論文発表と口頭発表を通してチャにおける記憶の美学的特質と倫理的含意の双方をおもに英語圏の数多くの研究者たちと共有することができた。コロナ感染症の危機的状況下の中で、実際のアーカイブ調査や聞き取り調査の面では様々な困難を経験したが、その中でもチャ研究に新たな地平を切り開くための第一段階の研究成果を発表し、刊行することができた。また特に 1970 年代の実験映画と文字テクストとの関係、そして同じく 1970 年代アメリカ西海岸の大学におけるフェミニスト理論、フェミニズム運動の進展については今後の研究への新たな視座を得ることとなった。また主に英語で発表を行った成果の一端を、日本語圏にて作家や市民の方々とも共有し、その可能性をさらに議論することができた。このように国外、国内双方で成果を発表し、今後の本研究者のチャ研究のための方法論的・主題的な糧を得られることとなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Mayumo Inoue	４．巻 -
２．論文標題 "'Audience Distant Relative': Fugitive Transnationality and Poetic Form"	５．発行年 2022年
３．雑誌名 A Companion to American Poetry	６．最初と最後の頁 269-282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/9781119669760	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Mayumo Inoue, Jon Solomo, Lu Pan	４．巻 8.1
２．論文標題 "The Ornament and Other Stateless 'Foreigners': A Dialogue on a Poetics of Unbordering"	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of Contemporary Chinese Art	６．最初と最後の頁 87-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1386/jcca_00039_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Mayumo Inoue, Steve Choe	４．巻 -
２．論文標題 "Introduction: Theorizing Beyond Imperial Aesthetics in East Asia"	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Beyond Imperial Aesthetics: Theorizing Art and Politics in East Asia	６．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2307/j.ctvnb7s56.4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Kaori Nakasone, Mayumo Inoue	４．巻 -
２．論文標題 "Between Studium and Punctum: Tomatsu Shomei and Nakahira Takuma between 'Japan' and 'Okinawa'"	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Knowledge Production and Epistemic Decolonization at the End of Pax Americana	６．最初と最後の頁 224-239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781003036661-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　6件／うち国際学会　7件）

1．発表者名 Mayumo Inoue
2．発表標題 "Theresa Hak Kyung Cha's Cine-poetic Apparatus "
3．学会等名 A Lecture given at School of Cinema, San Francisco State University（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Mayumo Inoue
2．発表標題 "Theresa Hak Kyung Cha's Apparatus of the Aformal"
3．学会等名 American Comparative Literature Association Annual Conference（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Mayumo Inoue
2．発表標題 "Poetics of the Common and the Imperial Poiesis of the Nations in America’s Asia”
3．学会等名 International Consortium of Critical Theory Programs Conference, "Theorizing Global Authoritarianism: To Reclaim Critical Theory Against the Grain"（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Mayumo Inoue
2．発表標題 "The Orphic Undercommons and the University under Military Occupation"
3．学会等名 Asia Theories Network Workshop on the University : Colonial/Modern, Global/Neoliberal, Digital/Transversal（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2023年

１．発表者名 Mayumo Inoue
２．発表標題 「トリン・T・ミンハ氏発表へのコメント」
３．学会等名 「通路としての世界ートリン・T・ミンハ氏との対話」（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Mayumo Inoue
２．発表標題 「植民地主義を越える複数の道ーアートと政治の諸理論」
３．学会等名 橋本ロマンス氏主催のワークショップ（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Mayumo Inoue
２．発表標題 "Living Otherwise: A De-imperial Mode of Aesthetics"
３．学会等名 Living Otherwise: A Perspective of on Time, Space, and Sense-Making from Okinawa（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Mayumo Inoue
２．発表標題 "A Comment on Wendy Matsumura's Waiting for Cool Moon: Anti-imperialist Struggles in the Heart of Japan's Empire"
３．学会等名 A Book Launch for Wendy Matsumura's Waiting for Cool Moon: Anti-imperialist Struggles in the Heart of Japan's Empire（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2024年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
通路としての世界ートリン・T・ミンハ氏との対話	2023年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関